

会議報告書(議事概要)	
会議の名称	「健康都市おおぶ」推進会議（令和元年度 第3回）
日 時	令和2年2月4日（火）13時30分～15時00分
場 所	大府市役所5階 全員協議会室
出席者 （敬称略）	徳田 治彦（国立長寿医療研究センター） 内藤 講一（大府市歯科医師会） 榊原 明美（大府市薬剤師会） 和田 正樹（あいち健康の森健康科学総合センター） 竹原 木綿子（愛知県知多保健所） 武村 強（大府市小中学校長会） 梶谷 修（大府市スポーツ協会） 加知 輝彦（認知症介護研究・研修大府センター） 井上 啓子（至学館大学） 【欠席】 服部 義（あいち小児保健医療総合センター） 安井 直（大府市医師団） 山根 有美子（公募委員） 原田 正樹（日本福祉大学） 事務局（健康都市推進課・健康増進課）：7名
内 容	
1 あいさつ	市長： 本日はご多忙のところ、「健康都市おおぶ」推進会議にご出席いただき、まことにありがとうございます。 確定申告が始まり、駐車場が大変混雑する時期になった。皆さまには大変ご不便をおかけしている。また、日頃は、本市の健康都市施策の推進に多大なるご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。 インフルエンザの季節だが、今年は新型コロナウイルスの感染も広がっている。市役所でも職員にも予防のためマスク着用を呼び掛けており、市民の方にも手洗いの徹底やマスクの着用などを啓発しているところである。委員の皆さまには、今後とも市民の健康を守るため、お力添えをいただきたい。 さて、今年はいよいよ東京2020オリンピック・パラリンピック開催の年となる。本市は「金メダルのまち」を標榜しているが、今大会でもすでに、本市ゆかりの選手として、向田真優選手、川井梨紗子選手、川井友香子選手の出場が内定しており、活躍を期待している。また、4月7日には本市で聖火リレーも開催される。当日はぜひ沿道で応援していただきたい。 本市は今年9月に市制50周年を迎える。皆さまと市制50周年をお祝いしたいと考えている。

さらに、令和2年度は市の総合的な行政運営の指針となる「第6次大府市総合計画」がスタートする。将来都市像を「いつまでも 住み続けたい サステナブル健康都市おおぶ」と定め、10万人都市を目指してまちづくりを展開していく。国連のSDGsとも目標年次を同じくしている。キーワードはサステナブルである。

本日の会議では、2年間にわたりご議論いただいた、「『健康都市おおぶ』みんなの健康づくり推進プラン」、さらに今年度からご審議いただいた「大府市地域包括ケア推進ビジョン」の最終案が示され、皆さまのご確認をもって策定に至ると伺っている。これまで闊達なご議論をいただいたことに、深く感謝申し上げますとともに、計画推進についても、引き続きご指導、ご協力賜りたい。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

会 長： 本日は令和元年度第3回の会議として、「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進プランおよび大府市地域包括ケア推進ビジョンの確定に向けた会議となる。これまで行われてきた十分な議論を踏まえ、今後11年間の健康づくり事業などの目標が示されることとなる。もう一息のところなので、様々な視点から活発な議論をお願いしたい。

2. 議題

(1)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進プラン2020-2030について

事 務 局： 「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進プラン2020-2030について【資料No.1】 説明

委 員： 現在校正中ということなので、間に合うと思うが、33ページの「きらきら」の正式名称は「大府市幼保児小中連携教育」である。大府市の特色は児童センターも含めて子どもの支援を切れ目なく行っていくということなので、訂正をお願いしたい。

事 務 局： 対応させていただく。

委 員： 非常に立派なプランができたと感じている。これからがもっと大変だろうと思うので、事務局の方には頑張ってもらいたいと思う。先ほどPDCAサイクルについて話があり、各課の取組状況やそれぞれの成果や課題の報告も行っていくと思うが、どれくらいのスパンで行っていくのかが気になっている。

例えば、運動習慣の確立において、本市の主な取組には「子どもの体力向上プロジェクト」が掲載されている。愛知県が全国の中で運動能力が低いという結果を受けての取組だと思うが、私の経験から言うと、運動能力の統計データを上げること自体は難しいことではないと思う。私が懸念しているのは、体力が向上しても運動の嫌いな子が増えては何にもならないということである。10年間同じパ

ターンで取り組むのではなく、その先にある、運動の好きな子が増えるという目標を大切にしてほしい。短いスパンで子どもたちの生の意見を聞いて、取組の中に生かしていただきたい。

委員： 38ページの高血圧の未治療の定義と、39ページの脂質異常（LDLコレステロール）の未治療の定義について、単位の記載が間違っているので修正をお願いしたい。

事務局： 対応させていただく。

（2）大府市地域包括ケア推進ビジョンについて

事務局： 大府市地域包括ケア推進ビジョンについて【資料 No.2】 説明

（3）大府市健康プログラムについて

事務局： 大府市健康プログラムについて【資料 No.3】 説明

委員： このプログラムは3月以降どうなっていくのか。

事務局： 3月末までは歩数計測とデータ送信を続けてもらう。4月以降は検討中だが、無料のアプリに移行し、歩数の管理は参加者の皆さま個人で引き続き行っていたと考えている。ご案内については今後行っていく予定である。

委員： 歩数イベントの完歩の割合が、母数が829名になっているが、データ送信していなくても完歩している人がいる可能性もある。データ送信した人を分母にすべきではないか。

また、未就労者という表現は、「未だ就労していない」ということであり、今後就労を予定している方というイメージだが、おそらくこの中には既にリタイアされた方や、もう働かない方もいらっしゃると思う。表現を修正した方がよい。

委員： 推奨歩数を8,000歩としているが、国の健康日本21では、男性は9,000歩、女性は8,500歩、65歳以上の方は、男性が7,000歩、女性が6,000歩という目標を掲げており、これが一般的に使用できると思う。働いていない層は恐らく高齢者が多くなるので、この指標に照らすと結果が変わってくるのではないかと。

事務局： 現在分析作業を進めている。最終報告書では、性別や年齢ごとに詳細な分析をさせていただきたいと考えている。

会長： 参加者全体の平均歩数はどのくらいになるのか。

事務局： 2か月目の数値になってしまうが、8,195 歩が全体の平均値となっている。

事務局： 毎日3万歩歩いているような方もいらっしゃる中での平均値になるので、詳細な分析が必要になる。

委員： ターゲットとなる働き盛り世代の方の参加が多く、よいと思う。829名の参加者数についてはどのように捉えているか。

事務局： 昨年度は前期と後期それぞれ 200 名定員で行っていた。今年度は事業拡大に伴い、当初は定員を 800 名に設定していた。働く世代をターゲットに企業にもお声掛けさせていただき、結果として 829 名の参加者を得ることができた。印象としては、予想よりも多くの方に参加いただけたと思っている。

委員： 事業内容の中に管理栄養士による無料相談というものがあるが、現時点でどのくらいの方が利用し、それが活動量の増加につながったかどうかについて、評価が出ていたら教えていただきたい。

事務局： まだ事業継続中であるが、現時点で店舗での相談件数は十数件にとどまっている。ただし、今回企業にたくさん応募いただいたこともあり、企業に出向いて体組成の測定会を行い、そこにスギ薬局の管理栄養士も同行いただいている。その場で体組成データを見ながら相談支援を行っており、それを含めるとかなりの件数になる。個別に支援できていることで、ある程度継続に繋がっているのではないかと思う。

委員： 差し支えなければ、どのような企業が積極的に取り組んだのか教えていただきたい。

事務局： 雇用対策協議会加盟企業および健康経営に積極的に取り組まれている企業を中心に お声掛けさせていただいた。具体的には、三恵C&C様、名南製作所様、名張製作所様、協和工業様などで、そのほかにもいくつか企業単位で参加いただいている。

(4) その他

会長： 以上で本日の議題はすべて終了した。皆様には2年間にわたり、「健康都市おおぶ」推進会議の委員として御尽力いただき感謝申し上げます。3月末をもって委嘱期間が終了となる。引き続き委員に御就任予定の方もいらっしゃると思うが、一つの節目として、委員の皆様から一言ずつ、計画策定の中でお感じになったことや、今後の計画の推進にあたり期待されること、その他健康都市や地域包括ケアの推進に関することなど、御自由に御発言いただきたい。

委員： これまで3期6年にわたり、委員を務めさせていただいた。自分自身も健康プログラムに参加させていただき、大変楽しく歩かせていただいた。こういうプログラムがあると歩かなくてはと思うが、歩数イベントが終わった途端歩く機会が減ってしまった。こういった企画があると皆さんもその気になって歩くのではないかと感じたので、これからはぜひよろしくお願いしたい。

委員： 素晴らしい計画ができたと思う。一方で、一般の市民の方は計画のことを知らずに過ごしてしまうのが現状であり、いかに市民に周知していくかということが最も大事だと思う。そうではないとただの統計学になってしまう。

先ほどどんな企業が市の取組に積極的に関わってくれているのかお伺いしたが、商工会議所などとも連携して、周知を行っていただきたい。また、小中学校などとも連携して、保護者の目につく形で子どものウォーキングなどを考えてもらったりすると、もっと楽しい健康づくりになるのではないかと感じた。

委員： 身体活動や運動を行っている人の割合は伸びているが、残念ながら肥満者も増えており、あいち健康プラザとしては悔しい状況にある。肥満者の割合も含めていい方向になっていくように、私たちもお手伝いができたらいいと感じている。先ほど梶谷委員がおっしゃったとおりだが、私も運動が専門なので、体力を上げることも重要だが、子どもも大人も、運動の楽しさを知り、継続してもらう中で、結果的に体力が向上したという形になっていると嬉しく思う。

地域包括ケア推進ビジョンについては、地域資源の活用や誰もが集える場づくりの中にあいち健康プラザも加われればよいと思う。来年度からリニューアルに向け施設が変わっていく中、地域包括ケアにも力を入れていく方向である。プラザとしてもお役に立ちたいと考えている。よろしくお願いしたい。

委員： 今年度からこの会議に参加させていただいたが、とても素晴らしい計画ができたと思っている。一方で、梶谷委員がおっしゃったように、短いスパンで評価をしていく必要があるということと、一般の方からするとなじみがないので周知が必要だということを感じた。

それから、健康プログラムについては、個人的な話だが、最近スマートフォンにも歩数データが記録されていることを知った。電車通勤の頃は何もしなくても1日6,000歩から7,000歩は歩いていたが、車通勤になった途端2,000歩にも届かなくなってしまった。活動量計を持たなくても、身近なもので健康づくりに取り組めるのだと気づいたところであり、様々な形で啓発していくことが大事だと感じた。

委員： 健康都市推進課、健康増進課の皆さん大変ご苦労様でした。教員という職業は、子どもが目の前にいて日々励まされており、日々の教育や各種事業の中で、子

もと触れ合いながらモチベーションを高めていける。教育も具体的な成果は見えづらいが、子どもの笑顔や挨拶する様子、困っている子どもが安心した表情に変わったことなどで自分たちのやってきたことの成果を肌で感じることができる。一方で行政は、統計を追い、数値を見て成果を測っていかなくてはいけないのだということを改めて感じ、大変だなと感じた。

基本理念で「こころとからだ つなげよう 健康の輪」とあるが、自死対策だけにとどまらず、こころを大事にしていってほしい。現在本市は、小学校のスクールカウンセラーの配置、ふれ愛サポートセンタースピカの適応指導教室（レインボーハウス）、共和病院を中心としたケアなど、5市5町の中で一番恵まれた環境にあると感じる。そこは大事にしていってほしい。相談件数の伸びなどを見ても、こころの不調に悩む子どもや保護者は今後も増えていくのではないかと。また、この場でも議論したが、中学校卒業後の障がい者支援を切れ目なく行っていくにはどうしたらいいのかというのはとても気になることである。親子の触れ合いの時間が少なくなる中、ぜひ市として取り組んでいていただきたい分野である。

委員： 会議に参加させていただいて、私自身が健康に関する知識を深め、視野を広げることができ、感謝している。スポーツ協会として何ができるかと考えたとき、やはりスポーツ人口を増やしていくという役割が重要になるのだろうと感じている。現在、常に活動している方が4,000人程度だが、それ以上に増やしていきたい。また、健康都市として、10万人都市を目指すという意味では、新しい体育館など、スポーツ環境の充実も必要だと思うので、市に働きかけていきたい。また、市職員は原則徒歩通勤とするなど、市民の見本として率先して取り組んでいただきたいと思う。

委員： 2年間関わらせていただき、立派なものできたと思っている。他の委員も発言された通り、このあとどのように実行していくかが大事である。評価指標も設定しているが、数値を達成することが目標ではなく、プロセスを大事にしていほしい。そして計画を作ったからには、しっかり推進していってほしい。また、計画の話をして市民の方は知らないことも多いので、どうやって広く周知できるかということを検討いただきたい。

委員： 管理栄養士の養成をしている立場から審議会に参加し、色々勉強させていただき感謝申し上げます。人生100年時代ということで、疾病の重症化予防や、高齢期のフレイル対策・低栄養の問題など、今後栄養の部分がかなり重要になってくると思う。健康都市おおぶにふさわしい環境が整うようにと謳っているが、ぜひ、保健センターの管理栄養士の人数も充実していただき、旗振り役として、栄養についての取組を推進していただけると有難い。私たちもできるところで一緒になってサポートさせていただきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

会 長： 私からも一言申し上げます。本当に委員の皆さまから色々なお話をいただき、私自身も大変勉強になった。事務局のご苦勞もよくわかり、ありがたく感じている。このように立派なものができたことは本当によかったと思う。基本理念「こころとからだ つなげよう 健康の輪」、大変結構ではないだろうか。ぜひその「輪」が閉じられたものではなく、「開かれた輪」となることを心から祈念したいと思う。

また、大府市地域包括ケア推進ビジョンでは、私どもが重要な役割を果たしたと思いつつ、また、私どもセンターが認知症およびフレイルを柱に据えるセンターであり、そんな中、地元の大府市が全国に先駆けて、「大府市認知症に対する不安のないまちづくり推進条例」を制定されたことは、非常に心強く、ありがたく思っている。フレイルの研究については、プラチナ長寿健診で多大なるご尽力をいただき、大きな成果も上がりつつあるというところで、これからも大府市の協力を得ながら、全世界に研究成果を発信できるような中心的な施設になっていきたいと思っている。私どもセンターも地元があって初めて研究が推進できる立場である。今後ともよろしくご支援、ご指導賜りたい。

3 その他

事 務 局： プランとビジョンについては、現在印刷製本作業を進めており、完成した際には本編と概要版を合わせてお渡ししたいと考えている。

事 務 局： 本日もたくさんのご意見をいただき感謝申し上げます。また、計画は作ってからの実行と市民への周知が大事である旨、ご指摘をいただいた。

2年間をかけて、プランとビジョンを無事取りまとめることができた。専門的な知見や現場の実態など、さまざまな形でご意見をいただけた賜物であると考えている。2つの計画については、来年度から様々な事業展開につなげていきたい。

今回が今年度最後の審議会となり、皆さまの任期も今年度末となることを残念に思う。1月に皆さまの所属長あてに委員推薦依頼を送付させていただいている。一部の方には引き続き委員にご就任いただけると伺っており、引き続きよろしくお願いしたい。